

すべての女性が輝く明日のために

JAUW 会報



一般社団法人
大学女性協会

第284号
2025年3月



特集 2025年度全国総会・第14回定時会員総会 国内奨学金贈呈式

会長挨拶 巳年のごあいさつ…………… 2
総会担当 新潟支部より

2025年度全国総会・第14回定時会員総会…………… 3

国内奨学金贈呈式…………… 4~7

「新春のつどい」報告…………… 8
ジュネーブ国連欧州本部へ

調査・研究委員会報告…………… 9
「次世代につなぐ会」報告

Jカフェ第17回報告…………… 10
収益事業委員会報告

支部だより…………… 11
札幌支部、神戸支部

お知らせ…………… 12
守田科学研究奨励賞授賞式、
パトリシア募金寄付者ご芳名、
節目のCSW、初夏のコンサート、
新入会員、理事会から

巳年のごあいさつ

会 長 長谷川瑞穂



2025年は穏やかな年明けとなりました。会員の皆様のご健勝と、本年が平和で災害の少ない年になりますよう祈念いたします。2024年元旦の能登半島地震、その後の豪雨災害を体験された金沢支部および北陸の支部の皆様には心からお見舞い申し上げます。1日も早い復旧復興により、被災された

皆さまに日常が戻るよう願ってやみません。世界情勢は、ロシアとウクライナの戦争、パレスチナ・ガザ地区でのイスラエルとイスラム・ハマスの紛争など心の痛む状況です。このような戦争、紛争は第2次大戦後の世界秩序を揺り動かし、不安が募ります。戦争、紛争が終結し、平和で安心して暮らせる社会になるように願うばかりです。

このような中、大学女性協会は順調に従来の事業活動や、リーフレットの改訂版の作成、公開シンポジウムの報告書や調査・研究委員会による「ケアしあう社会を目指して」の出版準備を行ってまいりました。本年は巳年であり、蛇が脱皮するように復興、再生の年といわれております。大学女性協会の活動も時代とともに変化しつつあり、デジタル技術を導入しながら会員の皆様がお互いの価値観を尊重しつつ、仲良く楽しく活動していけたらと思います。本年も3つの目標を主軸に活動を行います。

まず、目標1の「女性の高等教育の推進」に向けては、奨学金事業で若手の研究者の支援を行って参ります。「新春のつどい」では9名の奨学生の研究に対する熱意を伺うことができました。奨学金事業の他に会員による発表や講演も行っていきます。目標2の「女性の地位の向上：男女共同参画」に関しては、本年は特に政治分野に進出する女性に焦点をあて、考えていきたいと思っております。8月7日午後には予定されている EXPO2025参加のテーマは、「女性の政治参画の意義と課題」です。上川陽子議員の講演も計画されておりますが、昨年の日本のジェンダー指数は118位でいまだに低く、特に政界で活躍する女性の数の少なさが指摘されております。第3の目標「国際協力と世界平和」に関しては、本年は特に GWI 等を通し、積極的に英語で大学女性協会を発信していくつもりです。昨年は大学女性協会を紹介するビデオを CIR が作成し、GWI 本部に提出いたしました。また、2024年9月にはインドから3年間の期限で UWAsia（アジア大学女性連盟）議長国を引き継ぎました。GWI や UWAsia の皆様を受け入れる体制も作ります。他に留学生との交流は、文化交流委員会、支部な

どの企画で進めてまいります。全国セミナーでは、「ウェルビーイングと環境」について、特に支部の皆様とも一緒に論じていきたいと存じます。また、5、6年後の移行法人終了後の大学女性協会についても皆様と一緒に考えていきたいので、2025年5月新潟での全国総会でそのような場を提供すべく、理事会で検討しているところです。

最後になりましたが、2021年から5年間で終了する予定のパトリスア募金へのご協力をありがとうございました。お陰様で2024年は多くの会員の皆様からの寄付があり、5年間で500万円の目標を達成できそうです。パトリスア募金はあと1年続きますが、本年もご支援をよろしく願いたします。2025年度も皆様と共に歩んでまいりたいと思っておりますので、何卒よろしく願い申し上げます。

新潟でまた新しい学びを 風薫る5月に全国の仲間とご一緒しましょう

新潟支部実行委員長 大淵智絵

2025年度の全国総会は16年ぶりに新潟市での開催の運びとなりました。当地開催を光栄に思い「新潟支部全員参加のおもてなし」を目標に準備に取り組んでいます。

今回は運営に関していくつかの試みがございます。まずはこれまで総会前日に設けていた懇親会を、総会と同日開催にしました。お忙しい皆様がより参加しやすくなることを期待しています。続いては代理店の活用です。貴重な交流機会である全国行事の運営が持続可能となるヒントを求めての試みです。また、JAUW ウェブサイトを活用し最新の楽しい情報提供を事前に行いますので是非ご覧ください。

このたびの計画では「大学女性協会らしさ」「新潟らしさ」を大切に検討を深めました。講演会は、米国出身で新潟県ゆかりの文学者ドナルド・キーン博士についてドキュメンタリー番組のプロデュースをされた南加乃子さんを講師にお迎えします。懇親会では佐渡金山の世界遺産登録を記念した民謡と踊りとともに、新潟の食材を用いたお料理をお楽しみください。研修旅行はものづくりのまち新潟県中央地域で、伝統継承と新たな価値づくりへの挑戦にふれる旅です。この旅は「他ではできない当会ならではの特別な旅」。自然の風景と訪問先での「特別な体験」に加え、講師とガイドの充実も自慢です。どうぞご一緒ください。

これを機に会員の交流が深まり、全国ネットワークである JAUW の価値がますます輝ききっかけとなることを願いながら、みなさまのご参加を新潟でお待ちしています。

2025年度全国総会・第14回定時会員総会 開催概要

2025年5月17日(土)～19日(月) 新潟市

2025年度全国総会・第14回定時会員総会を新潟市で開催いたします。概要は次の通りです。内容・申し込みの詳細は、郵送にてお届けする「2025年度全国総会・第14回定時会員総会ご案内」「研修バス旅行ご案内」をご覧ください。

1 日程

会場 ^{ばんだい} 万代シルバーホテル（新潟市中央区）

◆5月17日（土）

【支部長会】14：00～16：00（5階 昭和西の間）

* エクスカーション 17：00～18：00

「新潟市會津八一記念館」学芸員の解説付き見学

◆5月18日（日）

【定時会員総会】9：30～12：00（5階 万代の間）

【昼食休憩】12：00～13：15（同上）

【講演会】13：15～14：30（同上）

【全国総会】15：00～16：30（同上）

「移行法人終了後に向けて（仮）」

【懇親会】17：00～19：00（5階 昭和の間）

* バザー 定時会員総会開始前 9時より開催

* 講演会 / 一般公開

「ゆかりの地・新潟でドナルド・キーン先生を想う」

講師：南 加乃子氏 ブルボン吉田記念財団評議員、BSN新潟放送「ドナルド・キーン 95歳 心の旅」プロデューサー

* 懇親会アトラクション 民謡と踊り

「佐渡金山の世界遺産登録を記念して」

◆5月19日（月）8：10～17：30

【研修旅行】新潟市西蒲区、燕市、三条市

「新潟発日本製～継承と新たな価値づくりをつなぐ旅」

2 参加費

総会費 3,000円 懇親会費 10,000円

昼食 2,500円 研修旅行費 13,000円

エクスカーション 800円

3 会場・宿泊案内

万代シルバーホテル 電話：025-243-3711

〒950-0088 新潟市中央区万代1-3-30

宿泊費 5/17 9,900円 5/18 8,800円 税・朝食込

* 宿泊手配も総会等と一緒に申し込みください。

4 申し込み方法

* 会員は、「申込書」に必要事項を記入の上、各支部長へ3月25日（火）までに提出します。支部長は出席者を取りまとめて「支部出席者まとめ書」と「申込書」を4月1日（火）必着で指定の代理店あてにお送りください。

* 研修旅行参加者は申込書の該当箇所に、降車場所・昼食の選択・年齢（旅行保険用）の記入をお願いします。

* 参加費の送金は4月8日（火）必着で申込書と同封の払込取扱票で個人別に指定口座に払い込みください。宿

泊、研修旅行は定員に達するまで払い込み先着順の受付です。

* 総会、昼食、懇親会、研修旅行、エクスカーションのキャンセルは5月1日（木）までとします。ただし、総会費3,000円は取り消し日に関係なく返金できません。宿泊のキャンセルはホテルの規定に基づきます。

5 問い合わせ先

指定の旅行代理店が申込受付を代行します。申し込みの変更や問い合わせ、ご相談はこちらへお願いします。

旅行代理店 MAC（マック） 山本 政己

電話：090-1655-4416 メール：mac2kij@gmail.com

FAX：025-201-2766 〒950-2074新潟市西区真砂4-9-13
新潟県知事登録旅行業第3-301号、（一社）全国旅行業協会会員

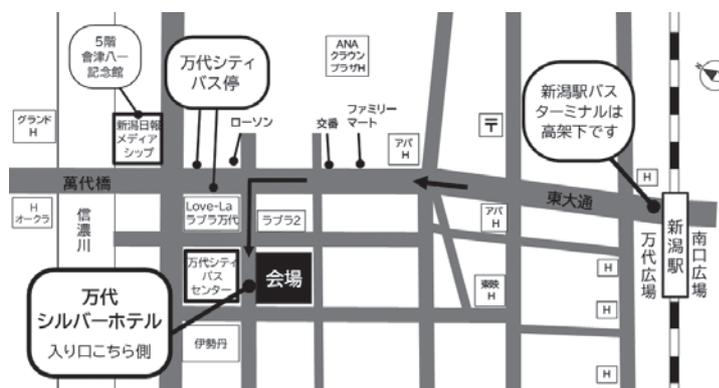
6 交通ご案内 万代シルバーホテルへのアクセス

JR 新潟駅万代広場方面出口より1km 徒歩13分

路線バス 万代シティ下車 2分

高速バス 万代シティバスセンター下車 1分

新潟空港から 路線バス30分 万代シティ下車



7 その他

・開催地に関する楽しい情報を発信します。

3月15日更新のJAUW サイト内新潟支部ページから新潟支部会報最新号をご覧ください。

・収益事業委員会によるバザーは総会同日の5月18日に開催、バザーへの寄贈品は会場にて当日受け付けます。

・新潟支部担当者 大淵智絵 E-mail: chie@ofuchi.com

会員の皆様へお願い

4月下旬に「第14回定時会員総会開催通知」と「総会議案書」「議決権行使書」を正会員の皆様へ発送いたします。「総会議案書」は必ずご確認ください。定時会員総会は重要な総会ですので、正会員の皆様には万障お繰り合わせの上ご出席をお願いいたします。欠席の場合は「議決権行使書」にご記入いただき、署名、捺印の上、5月12日（月）必着でご返送ください。

JAUW 新春のつどい 第1部

国内奨学金贈呈式

2025年1月11日（土） KKR ホテル東京・孔雀の間にて

第77回 一般奨学生・第34回安井医学奨学生選考にあたって

国内奨学委員長 窪田憲子

「将来のリーダーになり得る優秀な女子学生に学資を授け、勉学や研究活動を奨励する」という目的をもつ当協会の国内奨学金は、一般奨学金が77年目、社会福祉奨学金が53年目、安井医学奨学金が34年目を迎えました。

選考経過としては、6月に本協会の23支部を經由し、全国の225大学へ募集書類を発送しました。同時にホームページからの募集も行いました。応募総数は、昨年より14名多い87名でした。そのうち一般奨学金応募者71名の一次選考を各支部で行い、39名を選抜しました。安井医学奨学生については、9名の応募がありました。

一般奨学生に関しては、理系の研究が目立ったことが大きな特徴でした。ここ数年、理系が多い傾向が続いておりましたが、今年は2対1を上回る勢いで理系の研究が多く見られました。研究テーマとしては、介護と災害に関連する研究が確実に増加してきております。また文系において、文学研究が非常に少ないことが従来にはない顕著な現象で、大いに考えさせられました。

安井医学、一般奨学生について、今年もまた優れた応募者が多く、全体的にも高いレベルが維持されておりました。また、仕事を持ちながら大学院に通って研究する方や、一度社会で仕事をしてから再び大学院に戻る、という方が増えている傾向が見られました。年代的にも、20代、30代だけでなく、60代で応募された方もいて、研究の形態が多様化していることも今年の傾向でした。また、研究成果を社会に還元する取り組みをしている方も多くありました。

そのような中、国内奨学委員会では、羽生香織選考長を中心に、応募者の研究遂行能力、研究業績、将来性、リーダーとしての資質・熱意、さらに博士課程前期・後期のバランス、地域のバランスを考慮しながら本選考を行い、国内奨学生候補とし、理事会の承認を得ました。ご協力を賜りました全国支部および関係者の方々に感謝申し上げます。

第53回社会福祉奨学生の選考にあたって

社会福祉委員長 遠藤理枝

今年度も6月1日～8月31日の間募集を行い、大学生は東京支部1名、静岡支部1名、京都支部1名、熊本支部1名の計4名、大学院生は茨城支部1名、東京支部1名、静岡支部1名の計3名の応募がありました。

厳正かつ慎重に選考し、身体に障害を持つ学業・人物ともに優秀で将来リーダーとなり得る女子学生として、大学生は、国際裁判管轄について研究する京都産業大学法学部4年生の篠原礼渚さん、人々の生活の基盤である建物の設計や災害に強い誰もが利用しやすい空間づくりを研究する熊本大学工学部4年生の宮元沙貴さん、大学院生は、葉のより高精度の安全性評価手法や化学物質の適正使用を研究する静岡県立大学大学院薬食生命科学総合学府博士課程前期2年生の原川ゆうさんが選ばれました。

奨学生の今後一層のご活躍をお祈りいたします。

ホームズ奨学生

フェイズ理論に基づく移動に関する通言語的研究



九州大学大学院 人文科学府
言語・文学専攻 博士後期課程2年
臼井悠香

ヒトに生得的に備わる言語能力の解明を目指す生成文法研究における主要な研究トピックのひとつが、言語における「移動」です。例えば *John gave to Mary [the book about linguistics]*. という文は重名詞句転移と呼ばれ、動詞 *gave* の目的語位置から名詞句が右方へ移動します。このような移動は、どのような環境でも可能なわけではなく、*that* 節を越えると不可能である一方、*to* 不定詞節を越える場合は可能であるなど、統語的性質が関連すると考えられます。

私は、言語の構造構築において、統語部門で一定の構造が完成すると音声・意味部門へ転送されるとするフェイズ理論に基づき、上記の事例を含む広範囲の言語事実の説明を試みます。また、英語の他現象や、日本語やロシア語、ポルトガル語等の他言語に関する調査・分析を行うことで、通言語的観点から理論構築を行いたいと考えています。本研究の完成により、移動操作一般のメカニズムの解明、ひいては言語の構造構築の原理的説明が期待できます。

ヒトの子どもは、どの言語を話す国や地域に生まれても、その言語を話すことができるようになります。また、聞いたことがない文を発話することもできます。ヒトの言語能力に関するこの謎の解明に向けて鍵を握るのが生成文法研究であり、本研究を進めることによって、応用言語学や第二言語習得論といった言語学の他領域のみならず、コンピュータサイエンス、人類進化学といった幅広い分野への学問的貢献も可能であると考えています。

一般奨学生

高次脳機能障害者支援における医療ソーシャルワーカーの役割
— 社会関係資本と社会的処方箋の制度化の可能性 —

関東学院大学大学院 文学研究科
社会福祉学専攻 博士後期課程5年
大元慶子

日本には30万~60万人ほどいるとされる「高次脳機能障害者」を、社会でどのように支え、社会復帰へとつなげていくべきか？その鍵を握る存在が、医療ソーシャルワーカー（MSW）です。高次脳機能障害は、交通事故や脳卒中、脳外傷によって生じ、複雑な脳神経が障害され記憶力や注意力、遂行機能の低下、感情コントロールの難しさなど、本人の障害の認識力も含めて、見えにくい課題を抱えています。そのため十分な支援につながりにくく、「医療と福祉の狭間」に置かれること、その末には「社会的孤立」に陥りやすいという現状があります。

私の研究では、MSWによる現場での取り組みを包括的に調査・分析し、患者・家族、そして地域社会が互いをより理解・連携できる新たな支援モデルを提案しようとしています。エスノグラフィーや質的インタビューを通じてMSWの実務を深く掘り下げ、患者や家族の声に耳を傾けることで、そのニーズに寄り添った支援を検討し、更にデルファイ法を用いて医療・福祉専門家と協議して、具体的な支援策を提案します。この取り組みは、制度や支援の仕組みを整え、“誰一人取り残さない”地域社会の実現に貢献することを目指しています。高次脳機能障害という、まだまだ理解が進んでいない障害特性の課題に、専門家チームによる多角的な視点でアプローチすることにより、新しい社会参加モデルや支援指針の確立、高次脳機能障害者の理解の広がり、社会全体での温かなサポート体制の醸成が進むことを目指しています。

アストロサイトの全脳シナプス固定 / 再編機能の解明



早稲田大学大学院 先進理工学研究科
生命医科学専攻 修士課程1年
桑原葵

脳は人体の司令塔と呼ばれるほど重要な臓器にもかかわらず、その複雑性から、脳神経疾患の根本治療法はまだまだに少ないことが知られています。超高齢社会を迎えた今、増え続ける脳神経疾患の早期発見や根本治療法の開発が喫緊の問題とされています。近年、一部の神経疾患では脳の約30%を占めるアストロサイトと呼ばれる細胞のシナプス制御能力に変調をきたしていることが明らかになって

きました。しかしながら、長年電気信号を示すニューロンの研究が先行してきたため、電気的な信号を示さず静的だと考えられていたグリア研究は遅れをとっており、いまだにツール開発の段階にいます。本研究では、所属研究室が開発したアストロサイトを全脳で操作できる新しいツールを使い、シナプス制御を担うアストロサイト分泌因子と記憶との連関を理解することで、認知症の診断や治療のヒントを見つけることを目指しています。

私は現在の研究が未来の診断や治療に応用できる可能性に希望を持って日々研究に励んでいます。将来は学生時代に培った固有の解析技術をもとに、グリア-ニューロン間で働く分子メカニズム研究を全脳で明らかにしたいと考えております。今後も、世界を率いていくような女性研究者になるために、精進してまいります。

水中で収縮し強靱化するハイドロゲル接着剤の創製と機能向上メカニズムの解明



筑波大学大学院 数理物質科学研究群
応用理工学学位プログラム
博士後期課程1年

小松ひより

私はバイオマテリアル分野の研究グループで、術後の組織の閉鎖に使用される医療用接着剤の創製に取り組んでいます。特にハイドロゲルの膨潤挙動と強度の制御に焦点をあてて研究をしています。ハイドロゲルは、高分子の網目に水を含んだ構造を持ち、身近なものではゼリーやソフトコンタクトレンズなどが挙げられます。一般にハイドロゲルは水中で水を吸収し、膨らむことで、強度が低下してしまいます。生体内で使用するハイドロゲル接着剤もこの膨潤、強度低下の特性によって使用が大きく制限されてきました。これまでに、ハイドロゲル接着剤への疎水性成分の導入が水中での強度を上昇させることが明らかにされましたが、多量の疎水性成分を導入することは、注入性や溶解性の低下につながるため、疎水性成分の導入量には限界がありました。そこで私は、環状のオリゴ糖であるシクロデキストリンが可逆的に疎水性分子をキャッピングする特性を利用して、多量の疎水基を有する接着剤の使用を可能にしました。この接着剤は生体内など水が豊富な環境でシクロデキストリンによるキャッピングが外れるため、水中での収縮、強靱化を実現することができます。

私は研究成果を臨床で使用される材料として社会に還元することがバイオマテリアル分野で研究を行う者としての使命であると考えています。将来にわたり使用者を思いやって研究し、医師や患者から必要とされる医用材料を創出することで、世界の人々の健康と医療に貢献したいです。

繊細な力覚フィードバック機能を有する遠隔操作型手術支援ロボットの開発



大分大学大学院 工学研究科
工学専攻福祉環境工学メカトロニクス
コース 博士前期課程1年

まつしりの
松下涼音

私は、遠隔操作型ロボットの力覚提示機能について研究しています。特に、医療現場で用いられる遠隔操作型の手術支援ロボットにおいて、従来のロボットに力覚を加えることにより、医療事故の減少による安全性の向上と操作する医師の心理的ストレスの軽減が期待できます。従来のロボットでは、ロボットを操作する医師がほぼ目視にのみ頼る操作であり、ミスやストレスを引き起こすことがありました。我々の研究では、作業を行うロボットから操作者の手への力覚提示機能を実現するために、力の制御に適した機能性流体デバイスを開発し、高性能化を図っています。提示する力覚を再現するために、MR流体という特殊な性質を持つ材料を使用します。この材料は機能性流体の一種であり、磁場をかけることで、粘性を変化させることができます。この流体の性質を用い、力の感覚を再現するデバイスを開発しています。今後は、より繊細な力覚の提示やデバイスの高性能化を行います。また、他のあらゆる遠隔操作型ロボットへ適用します。

将来は、国際的な場面においてリーダーシップが持てる技術者を目指しています。世界の機能性材料研究を牽引する研究開発の成果をもって、学術・文化の両面から、社会課題の解決に貢献したいと考えています。そのため、現在は、国際感覚を身につける第一歩として、異文化理解やリーダーとしての能力を身につけるべく、台湾に留学をしています。

鉄筋コンクリート造建築物の地震による損傷について



室蘭工業大学大学院 工学研究科
工学専攻 博士後期課程2年

まつばやし
美樹

私は建築分野における鉄筋コンクリート（以下、RC）造の研究をしています。日本は地震大国であり、過去の大地震では多くの建築物が崩壊し、人々の命を脅かしてきました。近年では新耐震基準で設計された建物が多くの割合を占め、建物の崩壊は少なくなったものの、未だRC部に大きな損傷が発生することは多々あります。RC部材の損傷部を補修することは可能ですが、その補修効果は完全には明らかになっていません。建物を安心して使用できるように、RC部材について、どの程度の地震でどの程度

の損傷が発生するのか、補修を行ったRC部材に再び地震力を加えるとどのような挙動をするのかなどを予測できるように日々研究に取り組んでいます。具体的には、1/2スケールのRC梁試験体へ加力し、荷重変形曲線およびひび割れの発生状況を観察、損傷を補修した後、再度加力を行うという実験を実施しています。また、実験結果を学習データとして利用し、複数回地震力を受けたRC梁の荷重変形曲線をAIによって予測することを試んでいます。AIによる予測には非常に多くの学習データが必要ですので、引き続き実験データの収集を行ってまいります。

建築はアナログな部分が多く、進歩の遅い分野だとされることがあります。職人の経験工学的な知見も重要ではありますが、より合理的な設計や施工ができ、地震に怯えず安心して人々が生活できる未来のために、研究者の一人として寄与していきたいです。

安井医学奨学生

精神的ストレス経験後の末梢臓器の活動変化が腹側海馬での記憶の固定化に与えるメカニズムの解明



東北大学大学院 薬学研究科
生命薬科学専攻 博士後期課程1年

しおざきひろみ
塩崎裕美

私の研究は、精神的ストレス経験が末梢臓器の活動変化を通じて腹側海馬の記憶固定化に及ぼすメカニズムの解明を目指しています。ストレス下で心拍数や血糖値が変化する一方、脳の腹側海馬がその影響を受けて記憶形成を促進することに注目し、末梢から中枢への求心性経路に焦点を当てています。私は、マウスの自由行動下で脳波と心電図を同時測定する独自の手法を用い、さらに光遺伝学的手法とFos-TRAP法を取り入れて、神経ネットワークの操作や活性化細胞の特定を行います。

本研究により得られるデータは、ストレス応答のタイミングや機序の解明に貢献すると期待されます。また、うつ病の新しいバイオマーカーの発見や、糖尿病・心血管疾患治療薬の応用可能性を提案し、うつ病治療への新たな知見を提供することを目指しています。さらに、これらの成果を通じて、ストレスやその関連疾患の早期診断や予防戦略の構築を可能にし、多くの患者の生活の質を向上させる一助となることを願っています。

将来的には、臨床応用を視野に入れ、複数の疾患が共通のメカニズムで悪化する可能性を提唱することで、精神疾患治療の革新を追求し、日本医療の発展に貢献したいと考えています。

社会福祉奨学生

化学構造情報及びインビトロ試験データを用いたリードア
クロスによる反復投与毒性評価手法の開発

静岡県立大学大学院
薬食生命科学総合学府 薬科学専攻
博士前期課程2年

はらかわ
原川ゆう

化学物質の長期曝露で生じる毒性（反復投与毒性）を正しく評価することは、私たちの健康にとって非常に重要です。反復投与毒性は現在動物実験により評価されていますが、近年動物愛護の観点から動物実験の廃止が求められており、新たな反復投与毒性評価手法が必要です。そこで私は、未知物質の毒性を既知の類似物質の毒性情報から推定するリードアクロスを用いた反復投与毒性評価手法の開発に取り組んでいます。リードアクロスでは、類似物質の決め方が重要ですが、先行研究では類似物質の選択基準が明確でないケースが多くあります。この課題を解決するために、化学構造情報と当研究室が保有する多数の実験データから物質同士の類似度を数値として表し、客観的に類似物質を選択している点が本研究の独創的な点です。この研究が発展し、動物を使用しない新たな反復投与毒性評価手法を提案することができれば、動物愛護はもちろん、医薬品等の開発にかかる時間や費用を減らすことにもつながります。

毒性を計算科学的手法で予測する試みはまだ発展途上であり、スタンダードな考え方は存在しません。そのため、得られた結果をどう考え、次に何をすべきかを考える力がついたと感じます。研究活動を通して身につけた力を今後は製薬メーカーの開発職として活かし、「医薬品の適正使用を通して、人々の健康と幸せを最大化する」という目標を達成できるよう努力してまいります。

渉外的営業秘密侵害訴訟事案における国際裁判管轄について



京都産業大学 法学部 法律学科4年
しのはら 篠原礼渚

私は民事訴訟法ゼミに所属し、主に国際裁判管轄について研究しています。近年、グローバル化の進展や人材の流動化により、外国人や外国企業が関与する紛争や、両当事者が日本人であっても海外の財産に関する紛争が増えることが予想されます。このような渉外的な民事紛争が生じた場合、日本の裁判所はどのような紛争を扱うことができるのか、つまり、日本の裁判所は管

轄権を有するの否かを検討することが重要だと考え、このテーマで研究を進めています。特に、国際裁判管轄の可否は、企業活動や個人の権利に大きな影響を及ぼすため、実務的な意義が非常に大きいと感じています。

また、日本企業には営業秘密や技術的なノウハウといった貴重な知的財産が多く存在していますが、近年、それらが不正に取得・開示・利用される事案が増加しており、これに対する法的対策の強化が急務となっています。私は、企業法務の分野で、日本語と外国語を駆使して、こうした法的リスクを最小限に抑え、企業の事業の成長を法的観点から支えることを目指しています。今後は、自己の研究を深め、グローバルな視野をもち、企業法務の専門性を高めることで、国際的な法的問題に対応できる能力を身につけたいと考えています。

建築構造分野のこれからと新たな建築デザイン



熊本大学 工学部 土木建築学科4年
みやもと さき 宮元沙貴

私は熊本大学で2年間、都城工業高等専門学校で5年間、建築を学び、現在はLSB（梁型の部材）を用いた新しい接合方法の検討に関する研究を行っています。この研究では、木造建築物における新たな構造形式を提案し、その安全性や居住性を検証しています。近年、日本でも「2050年カーボンニュートラル宣言」が掲げられ、建築業界では二酸化炭素削減の観点から木造建築が注目されています。一方で、木造は他の構造に比べて不確定要素が多く、さらなる技術的課題を解決する必要があります。私はこの研究を通じて、木造建築の可能性を広げるとともに、持続可能で安心できる建物の実現に向けて貢献したいと考えています。

私がこの道を目指した背景には、自身の経験が深く関係しています。中学生の頃、怪我により障がい者手帳を取得しました。この経験を通じて、障がい者を含む誰もが安心して暮らせる環境の大切さを痛感しました。その後、高専や熊本大学で建築を学ぶ中で、熊本地震に触れ、自然災害の恐ろしさとその影響に苦しむ人々の姿を目の当たりにしました。このような経験から、「安心して暮らせる環境をつくる」という思いが強まりました。建築は人々の生活を支える基盤であり、災害に強い建物の設計や、誰もが利用しやすい空間づくりがその要です。私は研究活動を通じて得た知識と技術を活かし、全ての人が安心して暮らせる社会を実現する技術者を目指します。

新春のつどい 第2部

親睦事業委員会 中山律子

今年の「新春のつどい」は昨年の暮れに閉館となった学士会館から、皇居に隣接し、かつての一橋徳川家の屋敷跡という由緒ある地に建つKKR ホテル東京に場所を移して行われました。眼下に皇居二の丸を眺望するロケーションは明るく、会場に華を添えました。

第1部では国内奨学金贈呈式と奨学生によるスピーチが行われました。スーツ姿の奨学生は、緊張した雰囲気の中にも、将来に向けて研究をさらに続けていくと、夢と希望に溢れていました。例年ながら、若い学究者の熱い思いに胸が打たれました。「大きく育てて欲しい」と。

第2部は、植松親睦委員長の司会により懇親会に移りました。神奈川支部の西村寿美子会員（花柳流名取・花柳衛扇）により新春に相応しく、日舞「青海波」が舞われました。「青海波」は穏やかな波がどこまでも続いている様子を表現し、未来永劫「平和な日々が続きますように」という願いが込められ、大変縁起の良いお題です。

会は驚見元会長の乾杯の音頭に続き、会食・歓談へと移りました。今までは中華料理やフランス料理でしたが、こ

の度は趣が変わり、一皿一皿に盛られてくる日本料理の美しさと上品な味付けに満足し、笑顔になりました。宴たけなわの中、遠方からご出席くださった支部長による活動報告が行われました。地域社会と関わりながら、広く活動を進めていくよう努力されている様子が見えられました。

最後に2025年度全国総会開催の地、新潟支部長によって日程等のご案内がありました。

晴れ渡ったこの日が、大学女性協会の活動の良きスタートになりますことを願っています。



ジュネーブ国連欧州本部へ

東京支部 植原映子

国連の「女性差別撤廃条約」を日本国が批准したのは、もう30年も前になります（1985年）。

「『女性差別撤廃条約』を研究・普及する会を作りますが、大学女性協会の皆様もお入りになってください」という山下泰子さんのJAUW総会での呼び掛けにより、私は「国際女性の地位協会」に設立時より入会いたしました。

条約締結国は、それをきちんと守っているかどうかを国連から定期的に審査されます。政府はこれに答弁しなくてはなりません。「女性差別撤廃条約」の勧告に日本政府がきちんと対応しているかどうか、国連の審査が、今回2024年10月にジュネーブの国連欧州本部でなされました。これを

ウォッチングするべく100名以上の日本女性がスイスへ渡りました。

- 重要性が高く早急な対策を必要とする事項として、
- ①選択的夫婦別姓の実施（先進国でそうしていないのは日本だけ）
 - ②国政選挙における供託金の減額（参議院全国区では300万円。これでは、普通の女性は出られません）
 - ③緊急避妊を含む安価な近代的避妊法への十分なアクセスの提供
 - ④妊娠中絶についての配偶者同意要件の削除などがあります。

これらの実施状況を2年以内に書面で報告することが日本政府に求められています。（60項目以上の指摘があります）また、「男子のみに皇位継承を認めることは、条約の目的や趣旨に反する」とも指摘され、「皇位継承における男女平等を保障するため、他国の事例を参照しながら改正する」よう勧告がされています。

日本政府は条約の締結国として、これを真摯に受け止め誠実に取り組むことが求められています。日本政府はいまだに「選択議定書（オプショナル・プロトコル）」を批准していないため個人での通報ができません。なるべく早い批准を私たち女性団体は求めておりますので、大学女性協会のメンバーの方々のご協力をよろしくお願いいたします。



それぞれの民族衣装で（右から2人目が植原さん）

ケアしあう希望ある社会を目指して

～ユースの生きづらさを探る～

調査・研究委員長 片岡雅子

コロナ禍は3年を超えて私たちの生活全般に大きな影響をもたらしました。紛争、気候変動、経済危機など世界規模の不安が覆う時代にパンデミックが加わり、多くの人が生きづらさを感じていた2022年。私たちは、今を生きるユース当事者の視点を積極的に学び、社会的な障壁を認識し、その除去や解決方法を検討し、どのように支え合うことができるかを追究し、提言に繋げる、という目的を持って調査研究に取り組んできました。3年を経て、報告書の完成を目前にしています。

この調査の過程で印象深かったことは、出会えたユースが皆、自己を確立している方であり、コロナ禍で紆余曲折を経ながらも最終的にはポジティブに受け止めて、学業、友人関係、社会生活を継続させつつ、将来のビジョンに向かって進んでいる逞しい方々だったということです。そして、ユースの声を聴く、という本質を再認識させられる機会であったことに大きな意味がありました。本調査を通じて得られた各地のユースからの要望、課題解決に向けて、今後も共に取り組んでいく覚悟が必要だと感じてい

ます。

多くのユースの皆さま、支部の皆さまのご協力を得て、調査・研究委員の素晴らしいチームワークによって報告書にまとめることができました。心より感謝申し上げます。

皆さまには、報告書を手にとっていただき、ユースの貴重な生の声を受け止め、共に学んでいただきたいと願っています。



2024年2月27日ユースとのオンライン報告会

「次世代につなぐ会」から

委員長 岩村道子

「次世代につなぐ会」は事業8若手支援に所属する委員会として昨年度設置されました。主として現役世代の会員で構成された委員会は委員会設立後ただちに2023年12月からオンライン月例会を開始し2024年12月までに月例会8回、対面/オンラインでのイベント1回を開催しました。

イベント「皆で話し合おう 家族家庭について」は10月13日(日)に、東京(津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス)と京都(ウイングス京都)の2会場およびオンラインで開催し、参加者は42名でした。話題提供者の木林京子委員(岡山支部、小児科医)は生活環境の変化や急速な情報技術の進歩などが子供の身心に及ぼしている変化、例えば運動能力の低下や登校拒否などへの家族ぐるみの食育を中心とした対処方法を小児科医としての経験から話されました。岡

本美和委員(熊本支部、高校家庭科教員)は、高校家庭科の歴史的背景と今に至るまでについて話されました。男女必修科目となって30年の今でも性別役割分業意識や家事負担の偏りは残っているので、その解消を目指して授業をしていると述べられました。お二人のお話の後は参加者との質疑応答や意見交換が活発に行われました。

月例会 #8は12月2日(月)にズームオンラインで開催、参加者は37名でした。ショートセミナーでは、吉川貴子委員(仙台支部、脳科学者)が、脳には性差があることが知られているが、それが胎児期の早期から生まれる可能性をマウスの胎児脳を用いた実験から検証したことなどを話されました。性差は誰にでも興味のあるテーマなので、密なディスカッションが制限時間いっぱい展開されました。



生涯学習委員会第17回Jカフェ

「香り文化のルーツを辿る」

講師 大分支部会員 江崎一子



11月30日(土)午後2時からオンライン(ズーム+岡山支部PV)による第17回Jカフェが開催されました。講師の江崎一子博士(大分支部会員)は医学、食物栄養科学が専門の別府大学名誉教授、また2012年から23年まで「大分香りの博物館」

の館長を務められました。2018年、文化交流委員会の「留学生と学ぶ日本文化」の企画をお願いした折には大分大学の留学生ともども博物館をご案内いただき、匂い袋の製作あるいは自分好みの香水を調合する貴重な体験をさせていただきました。

香りは人類が誕生した時からの関心事であったことに驚

きます。古代エジプトやメソポタミアでは宗教祭儀に香りは欠かせないアイテムであり、旧約聖書にも乳香や没薬がよく登場します。ラクダが運んだ金と銀の鞍にも香りが詰まっていたのでしょうか。のちにシルクロードが開通すると香りの文化は東西に交流し、西方や南方の香りが広く宴会や祝い事にも取り入れられていきます。日本には仏教伝来に伴い、中国から百済を経てもたらされました。

のちに、ラテン語の per fumum (煙を通して) が語源となり香水(perfume)という言葉が生まれます。西欧では、蒸留法の発達により、香水の文化が急速に広まり、日本では「香道」という独自の文化が生まれました。江崎先生のお話は、縦横無尽に古今東西を駆けめぐり、古代から現代までいかに人類が香りと共に生き、他の被造物にはない人間独自の香りの文化を創り楽しんできたかをあざやかに展開され、参加者たちは大いに触発されて質疑応答もはずみました。江崎先生、馥郁たる楽しいお話をありがとうございました。

報告 鷲見八重子 生涯学習委員

国立能楽堂特別公演を鑑賞して

収益事業委員長 藤谷文子

12月25日クリスマス当日に収益事業委員会は20名の参加者を得て特別公演「川上」、「正尊」の鑑賞会を行った。当代きっての能楽師 野村万作(93歳)、萬斎(58歳)親子は狂言「川上」で夫と妻を演じた。万作が演じる夫は盲目の快癒を川上の地蔵に祈願しに行き、霊夢を得て目が見えるようになり、妻とともに喜び帰途に就くが、地蔵はまた別のお告げも示す。妻とは悪縁故離縁しろ、しなければ再び盲目になると。男は妻と離縁しようとするが、結局離縁しなかったため再び盲目になる。中世の人々は、神仏は人々に福利を与える霊験を示すと信じていたが、宿縁(前世から決まっている因縁や運命)にも支配されていたというのがテーマで、なかなか重いものであった。親子共演を見られたのは素晴らしい経験だった。

「正尊」は能の中でも最多登場の源義経の話で、平家物語巻12に基づいて描かれた劇能である。頼朝と不和になった義経(観世三郎太)のもとに刺客としてシテ土佐の坊正尊

(観世清和)が現れ、それを阻止するべくワキ武蔵坊弁慶(福王茂十郎)が立ち向かうが、正尊も負けずに起請文を読み逆意のないことを述べ、静御前(林小梅)が今様を舞い酒興を添えるが、やはり武装を固めた正尊の軍勢に襲われ戦いが始まる。弁慶の働き、両方の軍勢の入り乱れた戦いが舞台せましと繰り広げられ、見ている者たちにとっては素晴らしく、興奮する楽しい舞台であった。



幽玄な世界が広がる能舞台 (写真提供: 国立能楽堂)

支部だより

支部活動を活発にするために282号よりご意見、ご提案をお願いしています。各支部の取り組みの参考にさせていただければと思います。(広報委員会)

一つひとつを大切に

札幌支部長 朝日幸世

札幌支部は会員数14名。札幌以外にも、名寄、室蘭、滝川、そして東京在住の会員がいます。年間の活動は、春に総会、役員会年6回（ZOOM開催）、支部例会（3～4回）、新年会、「自然・歴史・文化を訪ねる会」を企画して出かけることもあります。公開講座「俳句同好会」（1997年開講）は月一回活動しています。支部のミニ・ニュース JAUW SAPPORO（1975年創刊）は、203号を発行しました。本部事業である「国内奨学生推薦」にも取り組んでいます。Jカフェや他支部の活動にもご案内があった時は ZOOM で参加しています。人数が少なくても一人ひとり実力があり、思いやりがあり、熱心で、一回一回がとても充実した楽しい時間です。ふだんから ZOOM や LINE で気軽にコミュニケーションがとれているのも良いところです。少しずつ会える機会も増えてきました。

Q：現在にもまして活動を活発にするにはどうすればいいですか？

A：今年度は例会の企画に際して、皆が積極的にアイディ

アを持ち寄って大変活気がありました。さらに活発にするには……会員増強でしょうか？ 広報の充実！♪～どうぞ札幌支部へ!! 良いところですよ～♪



JR 苗穂地区北海道遺産を訪ねる会
サッポロビール博物館

12月の神戸支部の支部活動

神戸支部長 松村和子

神戸支部奨学生選考会を12月7日（土）10：30～12：00にリードあしやD室で開催。神戸支部奨学生応募者4名のうち2名が出席し研究報告のプレゼンテーション・質疑応答に参加しました。欠席1名がパワーポイント資料を提出、1名が報告書のみを提出。13：00から役員会にて選考順位を協議しました。奨学生たちが私たちにわかりやすく自分の研究を発表し、また発表する場を楽しんでいました。このような機会をもっと増やしてくださいと感想をいただきました。

12月8日、恒例のヴィッセル神戸試合観戦のためノエビ



アスタジアムに37名が参加しました。最終戦で優勝決定戦ということで、異常に熱気あふれる優勝戦を堪能しました。やったー！ヴィッセル神戸J1リーグ連覇。冬将軍の到来で寒さに震えましたが、お土産のヴィッセル神戸のブランケットと熱気に包まれ一同大いに盛り上がりました。

Q：現在にもまして活動を活発にするにはどうすればいいですか？

A：神戸支部は会員の参加を中心に、家族・友達等の会員外の方も巻き込んで楽しい会・催物を企画しております。美術館見学、サッカー観戦、新春ランチコンサートなど。目標は多くの方と一緒に楽しい時間を過ごすことです。



* みなさまの支部で紹介をなされたい先輩・同輩、あるいは歴史や活動などを、是非、広報委員会までお知らせください

第27回大学女性協会守田科学研究奨励賞授賞式・受賞講演会

第27回守田科学研究奨励賞授賞式および受賞講演会、祝賀パーティーを下記の要領で現地開催いたします。(第2回若手女性科学者海外研修助成事業対象者の報告を併せて行う予定です。)多くの皆様にご参加いただきたくご案内申し上げます。

日時 2025年6月8日(日)
 授賞式 11時00分～11時15分 (Zoom 配信有)
 受賞講演 11時20分～12時30分 (Zoom 配信有)
 若手女性科学者海外研修助成事業報告
 12時30分～13時00分 (Zoom 配信有)
 祝賀パーティー 13時10分～15時00分
 会場 アルカディア市ヶ谷(私学会館)
 住所:〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
 TEL:03-3261-9921
 交通アクセス: <https://www.arcadia-jp.org/access/>

祝賀パーティー参加費 4,000円
 受付開始 4月15日 (WEB 申込を予定)
 *昨年度より授賞式の開始時刻を11時としております。ご注意ください。
 *受付詳細は WEB ページをご参照ください。

(一社)大学女性協会80周年記念募金パトリスア寄付者ご芳名

期間:2024年11月1日～2025年1月31日
 寄付者人数:19名、寄付金額:265,000円
 上記期間中の寄付者ご芳名(敬称略・支部別50音順)
 (長野)徳田節子 (東京)阿部幸子、岡崎朋美、加納孝代、窪田憲子、佐々木澄子、嶋田美恵子、辻英子、中村久瑠美、縄田眞紀子、山下順子、鷲崎千春 (神奈川)穂田信子、鷲見八重子、房野桂 (福井)山田由美 (京都)島田洋子 (神戸)宇野蓉子 (広島)山手万知子
 全体期間:2021年4月30日～2025年1月31日
 寄付者延人数:332名、寄付総額:4,307,600円

寄付金の振込先口座
 銀行:ゆうちょ銀行
 名義:一般社団法人 大学女性協会
 ① 払込取扱票(郵便振替)で行う場合
 口座記号及び口座番号:00130-0-587701
 ※パトリスア募金専用の払込取扱票をお持ちの場合は、そのまま使用可能です。
 ② 他行から振込の場合
 支店名:〇一九店
 口座種類及び口座番号:当座 587701
 ※ゆうちょ銀行口座から振り込まれる場合も同じです。

282号、283号の寄付者延人数の記載に間違いがありました。正しくは270名(282号)、313名(283号)でした。お詫びして訂正いたします。

理事会から

- ▶ 2024年度の国際奨学生が来日しました。ミャンマーの Yim Min THANT さんは北海道大学大学院、イランの Hoda ALAVIZADEH さんは東京大学で学びます。
- ▶ 2月2日、支部長会をオンラインで開催しました。ご参加の皆様ありがとうございます。
- ▶ 来年度より国内奨学生応募依頼を郵送から電子メールに切り替えます。関係大学のアドレスリスト完成までの国内奨学委員会と支部のご尽力に感謝します。
- ▶ 事務所の開業日時は、火木金の10:30～16:00です。

節目のCSW

国際ネットワーク委員会

副会長、国際ネットワーク委員長 鈴木千鶴子

今年の国連女性の地位委員会(CSW)の優先テーマは「北京+30」。CSW69は様々な節目となるようです。

JAUWの支援で出席する田中優希さん(東洋大学大学院生)は、出発直前にコロナ禍で中止となったCSW64の若手派遣者の一人でした。5年越しの夢を叶え、参加目的を「自身の研究課題“社会的擁護と子供の権利”を“ジェンダー不平等”との交差性の観点から考察すること」に収斂させて臨みます。また、日本の3NGOが国連政府代表部と共催で行うサイドイベントのテーマは「女性・平和・安全保障(WPS)」。



田中優希さん

2000年に国連安保理でWPSに関する決議1325が採択されて25年の節目に、女性自身が紛争予防や平和に主体的に参画することで持続的な平和構築の推進を期しています。

最後に、JAUW「めげないわたし」講座からご縁の、櫻井彩乃さんと彼女の講座に連なる高校生、男性も含む6名が賛助会員として参加し、多様性と包摂性の実質化にも貢献します。

初夏のコンサート

文化事業委員会

渡部純子と仲間たち

～平日昼のスペイン料理 & フラメンコ～

通常「トリ」として深夜に1ステージしか登場しない一流メンバーだけの豪華ライブショーです。ご鑑賞ください。

日時:2025年6月24日(火)12:00～15:30(予定)
 会費:8,000円(指定席)食事・ワンドリンク・コーヒー付
 会場:スペイン料理 アルハムブラ～パエリア自慢のお店
 JR山手線・京浜東北線 西日暮里駅前(徒歩30秒)
 出演者:渡部純子(踊り) 伊集院史朗(踊り・カホン) 勝野ユキ(唄) 今田央(ギター) 三木重人(バイオリン)
 申込み:fax・メールで4月1日から受付予定 定員80名
 3月会報に詳細チラシを同封します。



新入会員 理事会承認 2024年11月～2025年2月

- | | | | |
|------|-------|------|-------|
| 新潟支部 | 宮本 真菜 | 東京支部 | 伊勢眞理子 |
| 東京支部 | 岡田 直美 | 東京支部 | 武内 善以 |

一般社団法人 大学女性協会
 〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6 パトリスア信濃町テラス101
 電話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889
<https://www.jauw.org> E-mail:jauw@jauw.org
 発行人 長谷川 瑞穂 編集責任者 端本 和子
 発行日 2025年3月6日